

# 園の輪

そののわ No.183

学校法人 甲子園学院



「潜ってみたよ！海の世界」森田翔祐(甲子園学院小学校5年)

## CONTENTS

〈校祖70回忌 追悼式〉…………… 2	〈学校園だより〉…………… 4～9
追悼の辞	幼稚園 小学校 中・高校 短大 大学
甲子園学院長 久米 知子	
記念講演	〈学院トピックス〉…………… 10
甲子園大学心理学部長・教授 安村 直己	学院生の活躍
「コロナ禍における『こころ』のメンテナンス」	
～現代人のストレスと心の健康について～	

# 校祖七十回忌追悼式

令和五年三月三日、午前十時から甲子園学院高等学校体育館において、校祖七十回忌・前学院長九回忌が厳粛に挙行されました。祭壇には、校祖先生と久米利男前学院長先生のご霊位とご尊影並びに合祀者三名の方のご霊位とご遺影の前に十六基の供花、お供えが捧げられ、学院長が追悼の辞を述べました。その後、教職員並びに各学校園の学院生代表による献花、追悼歌・学院歌が演奏され、参列者は静かに心の中で追悼の意を表しました。今年度もコロナウイルス感染症対策として、来賓のご招待を見合せて実施しました。



## 追悼の辞

春の訪れがほのかに感じられる桃の節句のきょう三月三日は、校祖先生ご逝去の年から七十回目の祥月ご命日に当たります。学院はこの日を、校祖先生並びに久米利男前学院長先生のご遺徳を偲び、併せて学院関係物故者の御霊を祀る「追悼の日」と定め、学院にとって最も重要な行事である追悼式を毎年厳粛に執り行っております。

さて、今年度は三名の方を合祀いたします。

お一人目は中平一郎氏です。

中平氏は昭和三十一年に関西大学法学部を卒業、西宮市役所に勤務され財政課長や教育委員会総務部長を経て教育次長に昇任、平成二年四月に本学院に來られました。学院では短大事務局長、法人参事を歴任し、難しい課題の解決に邁進され前学院長や現特別顧問からも篤い信頼を寄せられ、学院にはなくてはならない存在でした。



元短大事務局長  
中平一郎氏

「この世で起きたことはこの世で解決出来る」を信条として、それを実践されていきました。難題を物ともしないその行動力には目を見張るものがありました。退職後もコロナ禍で中止になるまで毎年欠かさず追悼式に参列してくだ

さったことを感謝をもって振り返っております。

次に、鈴木絃夫氏は甲南大学経済学部を卒業後、関西テレビ放送株式会社に入社として入社、レギュラー番組を持つなど活躍、その後編成局、社長室、スポーツ局等で役職を歴任され、番組審議室専任局長をもって定年退職、平成十二年四月に甲子園大学入試広報室長として本学院に着任、以降十年に亘り心理学部で教鞭も執られ、学生指導にも熱心に当たられました。その間大学の周年行事や前学院長の「米寿を祝う会」での司会などその見事な進行ぶりに、さすがはプロと感じ入ったことをよく覚えております。



元大学入試広報室長  
鈴木絃夫氏

また平成十六年には本学在学中であった飛び込みの寺内健選手が出場したアテネオリンピックの応

援に現地へ出向き、八位入賞の朗報を持ち帰り、「片道十五時間越えのフライトはしんどかったですよ」と笑顔で話してくださいました。お三方目の角和子さんは昭和四十年に遠く茨城県北相馬郡から親許を離れて入学し、家政科二期生として開学間もない短期大学で学ばれました。



生二期生  
家政科  
角和子さん

当時はまだ学生寮がなかった時代で、現在の生活実習ハウスのあった前学院長宅へ四国から入学の同級生と共に寄宿し、私も一緒に過ごした二年間を今、懐かしく思い返しております。卒業後は故郷に戻られ、ご生家の医院のお手伝いや習い事をし、その後ご結婚、良き妻、良き母、良き祖母として周囲の人を大切に思いやるやさしいお人柄で七十六年の幸せな生涯を過ごされました。この一月末



に急逝されたことは悲しみに堪えません。短大を卒業されて五十六年間、毎年欠かすことなく誕生日にメッセージを頂いたことは忘れ難く、昨年暮れに頂き、奇しくも最後となったカードは今も執務室に大切に飾っております。本日合祀のお三方が校祖先生、前学院長先生の許で安らかに鎮まり賜わらんことを心より願うものであります。

さて今年度は千支のうさぎに因み、飛躍の年にしたいと願っておりますが、我が国を取り巻く状況は一層厳しさを増しております。世界に目を向ければロシアのウクライナ侵攻の長期化、トルコ・シリア地震の更なる被害の拡大等が懸念されております。

一方国内においても少子高齢化の進展や、急激な物価高騰など問題が山積しております。また三年間、人々の日常を揺るがせて来た新型コロナウイルスの扱いが五月には2類から5類に引き下げられます。これにより学校をはじめ社会生活が従前に戻っていくことが予想されますが、まだまだ気を緩めることは出来ません。こうした内外の動向は、学生生徒数の減少など学院にも大きな影響を及ぼしております。私は新年互礼会で「皆が同じ方向に進んでもらいたい」と申しました。そして私たちは今こうして一堂に会し追悼式に臨んでおります。

追悼式の第一義は「先人のご遺

# コロナ禍における「こころ」のメンテナンス

～現代人のストレスと心の健康について～

甲子園大学心理学部教授・学部長 安村 直己

日本では二〇二〇年一月から新型コロナウイルスの感染拡大が始まりました。一月三〇日には、世界保健機構(WHO)が新型コロナウイルス感染症のパンデミック(世界的な大流行)を宣言しました。それからの私たちの日常生活は、当初は想像もできなかったような大きな影響を受けています。未知のウイルスであるため、当初、医療現場は大混乱し、感染不安を誰もが抱くようになりました。感染予防のために、人と人の自由な交流が制限されたことも、社会全体に多大なマイナスの影響を与えました。その後、三年が経ち、私たちは、今ようやくそこからの回復の道をたどり始めています。

コロナ禍の生活が続く中、私たちの心は陰に陽に大きなストレスを受けています。私たちが心の健康を保ち、元気に生活していくには、今こそメンタルヘルス(心の健康)を維持するために必要な知識を持ち、ストレスを解消するための行動を意識的に行い、ストレスで傷ついた心を修理・修復する「心のメンテナンス」が必要です。ストレスとは何か

そもそもストレスという言葉は、日常語になっていますが、stress

という英語であり、pressに語源を持っています。pressは「押しつける」という意味で、stress

とは、もともと物理的に「圧力」をかけるという意味でしたが、それを医学の領域で、生き物に負荷をかけ、悪性の刺激を与えるという意味で使ったのが、カナダのハンス・セリエという生理学者です。セリエは、生体に有害な刺激となるものを「ストレッサー」と呼び、それには「物理的ストレッサー」、「化学的ストレッサー」、「生物学的ストレッサー」、「精神的ストレッサー」があるとしました。普通、ストレスというと精神的なものだと思っている人がいるかもしれませんが、セリエは、暑さ、寒さ、振動、騒音も、薬の副作用や食品添加物なども、細菌やウイルス、病気やケガなども、それらはまったく次元の異なるものですが、すべて生体への有害な刺激としては同じものであるとして、これらを「ストレッサー」とひとくくりしたのです。これは、それまで誰も考えたことのない、画期的な発想でした。

そして、生体がそれらの刺激に抵抗している状態を、セリエは「ストレス状態」と呼びました。



つまり、ストレスとは、生体がストレッサーから自分を守ろうとしている防衛反応であり、逆に言えば、がんばって適応しようとしている証拠でもあるのです。しかし、ストレス状態は、それが長期に渡ると疲労が溜まり、抵抗もできなくなつて、さまざまな身体の不調が表れるようになりますので、注意が必要です。

## レジリエンスという考え方

そこで、そうしたストレスに強くなるためにはどうすればいいのか、さまざまな研究が行われてきました。当初、ストレスで生じる疾患(心身症)とそのメカニズムの解明が研究の中心でしたが、近年は、そうした疾病生成論に基づく病気の研究よりも、ストレスを受けても健康を維持できている人の研究、つまり、健康生成論に注目した研究が行われるようになりました。

考えてみれば、どんなに強いストレスを受けても、それをね返すことのできるような強い人間な存在はしません。むしろ、ストレスを受けて、一時的に健康を損ねることがあっても、そこから次第に回復して、再び健康を取り戻すことができることが大切であり、

そのような人は、どのような特徴を持っているのかに注目するようになったのです。そこで「レジリエンス(resilience)」という考え方が生まれてきました。レジリエンスとは「回復力」や「復元力」などと訳されます。ストレスを受けても、そこから回復することのできる人は、ある程度、先の見通しや、楽観性、自己効力感、肯定的な未来志向、冷静な現実感覚、ユーモアなどを持っていることが分かってきたのです。

コロナ禍で大きなストレスを受けている私たちは、つい悲観的な見通しを持ってしまったり、そこに意味を見出せず、前途に絶望したりしまいがちですが、そうではなく、こうした時こそ、逆に、未来への希望を見失わないことが、とても大切なことだと思います。おしゃべりは最高の癒し

日常生活においては、日中はしっかり活動し、夜はリラックスして十分な睡眠をとるなど、活動と休息のメリハリを良くすることが大切です。そうすることで、心身の健康なバランスを調整している自律神経系の交感神経と副交感神経のリズムを安定化させることができます。そしてまた、おしゃべりは、ストレスを癒す大きな力を持っています。それも気楽で自由な無駄話や雑談がもつとも効果的です。コロナ禍のストレスで疲れたこころと身体を、楽しいおしゃべりで癒したいものです。

徳を偲び慰霊する」ことにありますが、更に「先人から学び、未来を切り開く指針とする」という重要な意義があることも忘れてはなりません。ドイツが生んだ世界的哲学者ヘーゲルは、「国家社会」として、重要な問題の成否を論じる際の判断の原理は全て歴史の中にある」と述べております。

この「国家社会」を「学院」に置き換えても何ら違和感はありません。皆が同じ方向性を保つためには、学院の歴史認識を全員で共有しなければなりません。校祖先生が追い求められた理想の教育とは何か、前学院長先生が遺された足跡とは何だったのか。それを真摯に知ることから本当の改革は始まるのです。今後の取り組みにおいても、私たちには学院の歴史と伝統を守り、先人の教えに謙虚に耳を傾けながら進めていく姿勢が求められています。

国際情勢と同様、学院の置かれている状況は一刻の猶予も許されません。校訓三綱領「勉努力」「和衷協同」「至誠一貫」の精神に立ち返り、この難局を切り開くことをここにお願いいたしますと共に、天上の校祖先生、前学院長先生の更なるお導きと、御霊のご加護を心よりお願い申し上げます。追悼の辞といたします。

令和五年三月三日

甲子園学院長

久米 知子

### クッキング♪ カレー作り

年長組



十月二十七日に年長児がカレー作りに挑戦しました。七月のおとまり保育で作る予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大を懸念し、夕涼み会に変更したため、今回やっと実現しました。

エプロンと三角巾を身に付け、綺麗に手を洗って消毒をして、衛生面に十分配慮し、「包丁を持つ手はねこの手」を合言葉にスタートしました。玉ねぎ、人参、ジャガイモを切る音がラン



チルムに心地よく響いていました。出来上がりを待つ間、外で遊んでいると、カレーのいい香りがない子どもたち。カレー皿に、できたてをよそってもらい、満面の笑みが溢れていました。自分たちで食材を切ったカレーの味は格別！「今まで食べたカレーの中で、一番美味しい！」これは、ほくが切った人参だ！と、興奮気味に頬張る姿が見られました。食に興味、関心が深まる絶好の機会になりました。

### クリスマス会& 中高吹奏楽部の演奏

一年に一度、素敵なお客様をお迎えるクリスマス会が十二月二十一日、ホールで行われました。ろうそくの火が灯る中、どこからか聞こえてくる鈴の音に「サントさんだ！」とすぐに気がつく子どもと、

「何の音？」とキョロキョロする子どもがいました。扉が開いた瞬間、子どもたち



は目をキラキラと輝かせ、満面の笑みと大きな拍手でサンタクロースを歓迎しました。みんなの気持ちが高まる中、サンタクロースに質問をしたり、プレゼントももらったりして終始笑顔の子どもたちでした。そして、その日も一つ、子どもたちが楽しみにしていたのは、中高吹奏楽部の演奏でした。楽器紹介では、それぞれの楽器の音色を活かした曲に耳を傾け



紙を丸めて豆を作り、保育室で豆まきをしました。「鬼なんか怖くない。やつつけてやる！」と言っていた子どもたちも、いざ鬼が保育室にやってくるとビックリ仰天!! 園舎のあちこちから鬼に怯える悲鳴に近い叫び声が聞こえ、部屋の中を逃げ回ったり、教師の後ろに隠れたり部屋隅隅に避難したり、大パニックになっていました。泣きながらも、「鬼は外！福は内！」の掛け声と共に、鬼を退治するために豆まきを、鬼が降参すると大満足。子どもたちが健康で自分の中にいる鬼にも負けませんように！

**豆まき**  
二月三日



### 科学あそび 空気砲

二月二十七日、初めての試みとして年長児が「かがくあそび」をしました。ホールで空気砲についてのDVDを見た後、教師が実際に空気砲を使って空気の弾を発射し、子どもたちは髪の毛が揺れたり顔や体に風を感じたりすることを体験しました。それだけでも、次の遊びに期待を膨らませている子どもたちでした。



空気砲に煙を入れてみると、今

まで見えなかった空気の弾が白色になり、ドーナツ型で出てくるのがはっきりと見えました。さらに、そのドーナツ型の空気弾はグルグルと渦を巻いていることにも気づきました。最後に、段ボールを組み立てて空気砲を作り、遊んでみることにしました。的に空気の弾を当てたり、ロケットの様に発射させたり、テイスシユやスズランテープを使って様々な撃ち方や遊びを考えていました。遊んでいるうちに好奇心や驚き、発見があったようです。この空気砲遊びの体験を通して、楽しく遊びながら「かがくする心」が育まれていたようです。

### つばやき Pick up すくすく大きくなあれ

生活発表会の「コマ年少児

当日の朝、担任が子どもたちの不安を紛らわせるために「先生も緊張してきた」と言う

「コマ年少児」と絵本にはない名前を自分でつけ、すっかり大きくなり、その日によって演じ方が変わったりして子どもなりに、楽しんでいろいろな表現をしていました。

舞台横で自分の出番を待っている時、お互いの気持ちを高め合うために「頑張ろうね、三蔵法師」「そうだね。羅利女」と役名で呼び合う姿がありました。保育室では朝から「緊張する」とそわそわしていた子どもたちが、本番の前に、気持ちまですっかり役になりきって臨もうとするその姿に、さすが年長児と頼もしい気持ちになりました。

### 年中児

自分の演じる役に愛着をもち始めた頃、「私は子ヤギのチョコチャ

修学旅行(沖縄)

二月十四日から十七日まで、中学受験を終えた六年生が、三年ぶりに沖縄へ修学旅行に行きました。初日、期待に胸を弾ませる一行は伊丹空港から沖縄へ。到着後、「ひめゆり平和祈念資料館」と「平和祈念公園」を見学し、戦争の悲惨さを知るとともに平和の大切さを学ぶ大切な機会となりました。



この学習で感じた思いを全員が綴り、資料館に提出しました。昼食は、沖縄そばをいただきました。二日目は、「もとぶ元氣村」での

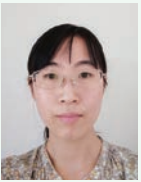
海洋体験プログラム。沖縄の美しい海でカヌーやサバナの体験をしました。かわ



いいイルカとのおふれあいもありました。三日目は、「美ら海水族館」で迫力ある大水槽に魅了された後、国際通りを歩き、楽しみにしていたお土産を買い、最後に「首里城公園」を訪れました。最終日は、「おきなわワールド」へ行きました。「玉泉洞」では、自然が作り出した芸術ともいえる鍾乳洞に圧倒されました。また、伝統工芸紅型や琉球ガラスの体験をし、素晴らしいエイサー舞踊を鑑賞しました。仲間と過ごした大切な時間は、すばらしい思い出となりました。

すばらしい先輩たち

木村 樹里



第五十七期生  
筑波大学医学群  
医学類四年生

小学校時代の私は、みんなと同じことをするのが苦手でした。しかし、すべての先生方は、そんな私を温かく見守り、可愛がつけてくださったように感じます。きっと私の個性を大切にしてください。そうではないかと思っています。

校外学習

二月七日

二年生は、キャリア教育の一環として、西宮市内にある「キッザニア甲子園」で職業体験を行いました。事前に作成した計画表を元に、班全員で協力しながら仕事を体験したり、いただいた給料で買い物をしたりしました。将来やってみたくて、やりたい仕事はあんなに多すぎて、今まで想像したことのないような仕事にも挑戦しました。そこには、驚きと発見がたくさんあり、子どもたちは目を輝かせながら、将来への希望を膨らませていました。



学習発表会 II (展示発表)

二月二十五日

今年度最後の授業参観と合わせて、「学習発表会 II (展示発表の部)」を開催しました。

図工展

図工の授業で制作した平面作品と立体作品を展示しました。親子で作品を見ながら、「この作品は、こんな工夫をしたんだよ」「この色づかいがうまくいなくて苦労したんだ」と、自分の作品の解説をする子どももいました。



クラブ作品展

習字クラブ展は、久米翠娥先生のご指導を受けた子どもたちの力作が揃い、一つひとつの作品を見ながら感じる声がかれました。生活クラブ展では、裁縫作品「エコバッグ」や「毛糸玉リース」などを展示しました。カラフルで可愛い作品が見る人の目を惹き寄せました。



1/2成人式

二月二十三日

四年生は、自分の将来や目標について決意を發表し、今頑張っていることや得意なことを披露しました。なりたい職業が決まっている子、決まっていない子、さまざまですが、子どもたちも共に通じていたことがあります。それは、本校で目指す「社会貢献」につながる人になりたいということでした。将来について真剣に考える機会となり、これから自分の目標に向かって頑張ろうという気持ちを持つことができました。



私立中学入試報告

令和4年度中学入試 合格・進学者数一覧 (男子9名、女子6名)

合格者数	進学者数	親和	2	1	合格者数	進学者数	
大阪星光学院	1	1	2	1	須磨学園	3	1
大阪桐蔭	1	0	3	1	清風	5	2
岡山	4	0	5	2	高槻	1	1
岡山白陵	2	0	1	1	帝塚山	2	0
開明	3	1	1	2	西大和学園	1	0
海陽学園	1	0	1	0	梅花	1	1
片山学園	3	0	1	1	雲雀丘学園	2	0
関西大中等	1	1	1	2	武庫川女子大附属	1	0
近畿大学附属	1	0	1	1	明星	3	1
金蘭千里	2	1	1	3	六甲学院	1	1
甲南	3	1	1	1	公立	-	-
夙川	2	1	2	1			

# 表彰式

十二月二十日

新型コロナウイルスが流行して過去二年間は表彰式が行えず、各部活動の戦績をエントランスに掲示するのみでした。

今年度も各部は目覚ましい活躍を見せました。二学期までに獲得した賞状やトロフィーは六十個以上です。私学の書展と各部活動の表彰式を行い、全校生徒で祝福しました。全国大会に出場した中学校バレエボール部と剣道部は吹奏楽部の演奏で登場し、大きな拍手で迎えられました。



校長先生から「コロナウイルス感染症の流行によってさまざまな制限がある中、これだけ素晴らしい成績を残してくれて誇りに思います。これからも頑張ってください」とお褒めの言葉がありました。今回の表彰式を通して多くの生徒が目標をもって取り組み、結果を残していることを全校生徒に伝達できました。これをきっかけに生徒たちが更なる活躍をしていくことを期待しています。

# 吹奏楽部 定期演奏会

十二月十三日、あましんアルカイックホールにて本校吹奏楽部の第十三回定期演奏会を開催しました。新型コロナウイルス感染症対策のため、前回に引き続き完全予約制の入場システムを導入し、お客様を迎えました。



この演奏会は高校三年生の生徒たちにとっては最後の舞台になるため、全員で気持ちを締め、心を一つにして本番に臨みました。

第一部は、華やかなファンファレである「交響的序曲」から始

十二月七日、尼崎青少年創造劇場ピッコロシアターにて、「飛んで孫悟空」を鑑賞しました。

# ピッコロわくわくステージ

中学生

当日は役者の方々が舞台ざりざりまで飛び出してきて、目の前で歌ったり踊ったりと生の演劇の素晴らしさを間近で体験することができました。また、終演後には舞台技術や装置の説明を受け、砂嵐

まり、一瞬にして観客を舞台に釘付けにしました。続いて今年度の吹奏楽コンクール関西大会で金賞を受賞した、バレエ音楽「中国の不思議な役人」、そして「ルイ・ブルジョアの讚美歌による変奏曲」を演奏しました。自信と気迫のこもった演奏に、会場から大きな拍手をいただきました。



第二部は、KGB劇場「勇者、時々魔王の冒険」の世界に誇るゲーム音楽」と銘打ち、企画から演出、パフォーマンスに至るまで、全て生徒たちが担う音楽劇を披露しました。自分たちで考えたオリジナルの劇を楽しく観て

を大きな布一枚で表現していたことに生徒たちはとても驚いた様子でした。



様々な芸術を鑑賞すること、生徒たちの感受性が豊かになることを願っています。

いただきながら、懐かしのゲーム音楽から最近の人気ゲーム音楽までを吹奏楽部全員で演奏し、聴いていただきました。

会場が笑い拍手に包まれる中、いよいよ最後は高校三年生の引退セレモニーです。次の新体制である一、二年生による「糸」の演奏をバックに、三年生全員で涙をこらえながら合唱をし、吹奏楽部長が三年間の様々な思い出や、これまで支えてくださった方々への感謝の言葉を述べました。そして三年生全員の名前を読み上げる中、部員は順に舞台から客席へ降りて行き、最後に部長が降壇する際は一段と大きな拍手で祝福していただきました。退場していく先輩たちの自信に満ちた後ろ姿を目に焼き付けながら、一、二年生はそれぞれに感謝と新たな誓いをもって演奏し、満場の拍手の中、無事終了しました。

# 秋季旅行

中学生

十一月二十八日から二泊三日で東京デイズニールゾートおよび東京観光に行きました。

初日は、新大阪駅に集合し、新幹線で東京駅に向かいました。東京駅に着き、オーブントップバスで東京タワーや国会議事堂、レインボープリッジやお台場など、都内の観光名所を見て回りました。

その後、浅草、東京スカイツリー方面に向かい、班別に行動しました。スカイツリーの展望台から東京の街を一望できる景色に生徒たちはとても喜んでいました。



最終日はデイズニールゾートです。級友と一緒にシヨーパーレードを見て、さまざまなアトラクションに乗ることができ、東京デイズニールゾートでの二日間の行程を無事に終えることができました。

「人気のアトラクションに何回も乗ることができた」、「キャラクターと写真を撮ることができた」、「グッズやお土産を見たい」、「たくさん買い物ができる」などの声を生徒から聞き、一人ひとり楽しみ方は異なりますが、デイズニールの世界を満喫している様子でした。この旅行では、共同生活を送ることで友情を深め、協調性や社会性を身につけるということを目標に掲げていましたが、生徒たちは十分にその目標を果たしてくれました。

# 秋季校外学習

十月三十日

## 高校一年生

「仲間とともに一歩踏み出す勇氣を持つよう」をテーマに、神戸市北区のアスレチック施設「天空×大冒険 ソラカケル」で秋季校外学習を実施しました。この施設では、柱の間に架かった地上7mのストリル満点のコースに命綱を装着して挑戦し、仲間と支え合い勇氣と知恵で攻略していくことで、達成感や充実感を体感することができます。



スタッフの方々とも入念な事前打合せを重ね、七十七期生が春の宿泊研修から大切にしてきた「仲間づくりプログラム」の成果を披露させた行事となりました。生徒の感想では「これからの社会生活でもこういう経験がとても大切になっていくと思う」「自分も周りの人を助けられるような人になっていきたい」などの声が聞かれました。この行事を通しての経験を糧に、二年生からのコース選択を始めとする進路選択にも、勇氣を持って踏み出してくれることを期待します。

## 高校二年生

秋季校外学習として京都嵐山に行きました。嵐山には初めて行くという生徒もおり、事前の班別学習から当日の班別行動まで協力して取り組むことができました。紅葉がとて



も綺麗で特に天龍寺では紅葉をバックに多くの写真を撮ることができました。また、「キノ・フォレスト」や「竹林の小径」など普段の学校生活では体験できないアートや自然に触れることができ、生徒たちも満足そうでした。今回のメインイベントであるトロッコ列車では、列車にゆつくりと揺られながら保津川の壮大な渓谷を楽しむことができました。

生徒たちからも「歴史あるトロッコ列車に乗って紅葉を見ることで心が安らかになった」「天龍寺や嵐山についての調べ学習、散策を通じて歴史に触れることができた」などの感想も出ており、生徒にとって多くの学びを得た校外学習になりました。



# キャリア教育

高校三年生

七十五期生は一年次から計画的にキャリア教育を進めてきました。今年度は、十一月に多彩な講師陣をお招きし、①「はじめての就職」、②「大人の言葉遣いを学ぶ」、③「スーツ着こなし講座」という三つの主題に取り組みしました。①は本校川畑教諭に「就職の実際生じるトラブルとその対処法」を、②ではフリーアナウンサーと村雅代先生に「場に応じた言葉の



選び方」を、③はアパレルメーカーの方に「おしゃれと着こなしの違い」や「着こなしの基本」を教えていただきました。卒業後、様々なライフステージで与えられる社会的役割を果たすための準備として、自分分は「何をすべきか」「どうあるべきか」を考える時間となりました。

## 探究学習

高校二年生は、修学旅行に向けた事前学習として、北海道の魅力や課題について数人の班に分かれ調べ学習の後、ポスターを制作し発表しました。発表会では観光地を紹介しつつ、魅力を増やす方法や観光客が減少している地域が抱える課題の解決策など、さまざまな意見がありました。振り返りの時間では、生徒から「他人と作業をすることの難しさを感じた」「情報をわかりやすくまとめる方法や根拠のある説明の大切さを知った」などの感想が出てきました。今回の探究学習で学んだことや考えたことが修学旅行での学びをより深くしてくれることを期待しています。

## 金融経済教室実施

十二月八日に、高校一、二年生を対象に金融経済教室（出前講座）を実施しました。成年年齢引き下げにより、十八歳から金融に関する様々な契約を自ら行えるようになることや、高等学校学習指導要領改訂で、金融経済教育の内容が拡充されたことから、その重要性が高まってきています。これを踏まえ、財務省近畿財務局神戸財務事務所から講師の方をお招きして、お金に関する知識や金融トラブルに関する問題を専門家である講師の方から、高校生にもわかり易い言葉でお話していただきました。また、ライフプランにおいて、目標・計画をたてることの重要性を語っていただきました。

# 保育実習

高校二年生五年一貫幼児教育コースの生徒は、一月十六日〜二十日、神戸市灘区にある幼保連携型認定こども園「はつとこども園」での保育実習に参加しました。生徒たちは年齢の異なる子どもたちと接し、年齢にあった保育の内容や関わり方を学びました。園内・園庭での遊戯、食事補助、絵本の読み聞かせなどです。毎日、その日の振り返りがあり、気づきや困ったことなどを発表し、担当の先生よりアドバイスをいただきました。「保育の仕事に携わりたいという気持ちが一層強くなった」「子どもたちへの接し方や話しかけ方について学ぶことができた」と感想を述べていました。



## 第75期生 大学入学合格状況

(令和5年3月7日現在)

甲子園大学	3名	桃山学院大学	1名
近畿大学	1名	摂南大学	1名
神戸学院大学	2名	神戸女子大学	1名
神戸女学院大学	1名	京都外国語大学	1名
甲南女子大学	1名	梅花女子大学	1名
関西看護医療大学	1名	大阪学院大学	1名
京都橘大学	1名	大阪人間科学大学	1名
神戸国際大学	3名	他四年制大学	6名
千里金蘭大学	1名	甲子園短期大学	18名
大阪成蹊大学	1名	他短期大学・専門学校	21名

### 令和四年度 学内成人式

一月十三日、学内成人式が三年ぶりに対面で開催されました。

第一部の記念式典では、早坂三郎学長からの式辞に



えて、II回生代表学生が誓いの言葉を述べ、続いて記念品贈呈が行われました。第二部では田中真理非常勤講師によるピアノ演奏会が開催されました。学生たちは繊細かつ迫力のある演奏を熱心に聴き、成人としての自覚に身を引き締めていました。

### おせち料理を楽しむ会

十二月二十二日、介護福祉フィロルドII回生が短大教職員を招いて恒例の「おせち料理を楽しむ会」を開催しました。白味噌仕立てのお雑煮、黒豆、ごまめ、栗さん

とん、伊達巻き、紅白かまぼこ、エビの黄金焼き等を前に一足早いお正月気分を味わいました。季節を感じさせる行事は、介護が必要な利用者の心身を活性化し、生活にゆとりや潤いを与える余暇活動として介護施設でも必要とされています。

### キャリアアップ研修会

兵庫県の「介護従事者キャリアアップ研修事業」の補助を受け、キャリアアップ研修会を二回にわたり開催しました。



この研修会は、保育・福祉・介護施設等に勤める卒業生や実習先の職

### 発明・工夫作品コンテストで入賞

日本産業技術教育学会主催の第十七回技術教育創造の世界(大学生版)発明・工夫作品コンテストに、短大の学生が挑戦しました。生活環境学科のグループでは、「消費と流通」「食品加工」「IT



技術II」の授業連携科目で、兵庫県の地場食材を紹介する「地場食材マップ」を作成。あまり知られていない食材の発掘や、地域産業・地域農業の活性化、兵庫県の地場食材の魅力を伝え、消費につなげることを目標に制作し、奨励賞を受賞しました。

員、潜在的有資格者等を対象に実施しています。

第一回は、十一月十九日に「対人援助に携わる人のセルフケア」をテーマに酒井律子特任教授(臨床心理士)が講演し、ペアですぐに実践できるリラクゼーションの指導も行われました。

第二回は、十二月十七日に「絵本や物語の効用、脳の活性化と地域とのつながりを体感」をテーマに木村雅代特任専任講師(フリーアナウンサー)が講演し、絵本の歴史やその効果、心を豊かにするための聞き手に応じた心配りとそのポイント等が紹介されました。さらに、脳の活性化に役立つ絵本の事例を挙げ、一緒に声を出して絵本を楽しむ時間を共有しました。講演後は、紹介された絵本を手に参加者同士が語り合う交流の場も設けられました。

### 卒業研究発表会

一月三十一日、II回生による卒業研究発表会が、本年度は遠隔配信も併用して対面で行われました。論文部門は伝統文化の現代生活での生かし方や手作り石鹸、ダンスについてなど、多岐にわたる内容でした。

実技部門では手作り絵本の発表と読み聞かせやブラームスのハンガリー舞曲第5番のピアノ連弾が

### フィールドワーク研修

#### 生活環境学科

十一月九日、生活環境学科のII回生が、「芹屋次郎」においてフランス料理のランチをいただきました。このお店は、特別講師として



実技指導に来ていただいている小久江次郎先生がシェフをされる本格的なフランス料理店です。入口が分かりにくい隠れ家のような雰囲気があり、カウンターを囲んで、シェフと会話をしながらお料理をいただくことができます。オードブルだけでも多くの種類があり、きれいに盛り付けがしてあります。

あり、バラエティーに富んだ発表でした。また、学習成果では上記のコンテストで入賞した生活環境学科ライフキャリアフィールドI回生・II回生合同の「兵庫県地場食材マップ」が発表されました。



#### 幼児教育保育学科

一月二十八日、幼児教育保育学科II回生が大阪市港区にある海遊館で、児童養護施設や乳児院等の施設保育士として、子どもたちを引率する場面を想定したフィールドワークを行いました。

事前学習では、引率を通して公共交通機関でのマナーや、施設内での規範意識をどのように児童に教えるかという話し合いました。当日は小学生の来館者も多く、実際に子どもたちが施設内でのように行動するのかが観察できるよい機会となりました。



た。フィールドワークを通して、事前学習では気づかなかったことや、多くの来館者が気持ちよく海遊館で過ごすための社会的なマナーを具体的に考えることができました。感染拡大防止に留意しつつのフィールドワークでしたが、今後の保育現場できっと役立つことでしょう。



# グリコピア神戸見学

十月三十日

昨年度から新しく開講された食育実践コースは地域連携の実践の場です。本コースでは、宝塚市を中心に、関西圏にある企業での体験学習を進めています。今回は食育推進を積極的に行っている江崎グリコ株式会社について事前学習を行い、グリコピア神戸を訪問しました。この施設は、家族で楽しく食文化を学ぶことができる施設として、一九八八年にオープンされたものです。

館長から企業の歴史やミッションについてのお話を伺い、工場見

学を行いました。そのお話によると江崎グリコは、「世の中の役に立つ会社でありつつける」を目標に、「事業を通じて社会に貢献する」といったポリシーを大切にしながら、商品開発を行われているとのこと。管理栄養士を目指す学生たちは、じっくりお話を伺うことができ、今後の食育推進の参考となりました。



## 地域協働論

「地域協働論」は、令和四年度より新たに開講され、学生が学部学科を越えて履修できる文理融合的な講義です。講義の目的は、宝塚市のイベント参加や小中学校との連携活動を通して、地域協働に関する実践手段や基本的な知識を学ぶことです。

一月十三日、受講生は宝塚市立南ひばりが丘中学校で「和食だし」に関するパネル発表を行いました。発表を行うにあたり、学生は実習テーマに関するグループワークや情報収集を念に行いました。発表は給食の時間に全校放送

で行われ、学生は、和食におけるだしの重要性、種類について説明し、発表後は、工夫して作成したパネルを給食室の前に展示しました。中学校の先生によると、パネル掲載のクイズも好評でした。



参加した学生は、「最初は非常に緊張したけれども、今回の経験が自信になった」と述べていました。今回の実習は、自分と地域のつながりや地域への貢献について考えるきっかけになったようです。

## マーケティングと心理学

特別講義

十二月八日に「マーケティングと心理学」の特別講義を行いました。この科目では、商品が生まれて消費者の手に渡るまでのプロセスに人や心の関与を見つめ、心理学をビジネスに活かす力を養います。講師に岡本株式会社常務取締役・マーケティング部長の白井光比呂先生をお迎えしました。

白井先生には、岡本株式会社のメガヒット商品でもある靴下「コピタ」のマーケティング戦略について、具体的なアプローチを様々な角度からわかりやすく講義して頂きました。コンセプトの設定からターゲットの絞り方、価格設定の方法、商品のネーミング、プロモーションに至るまで、



消費者の購買意欲を掻き立てる具体的な戦略についてお話を聞くことができました。「消費者の視点」を商品にどのように活かしていくのか、商品を世に出すために何が必要なのか、また消費者の心を掴むためにマーケティングがどのように利用され、心理学という学問がどのように関わっているのかという点を学生たちは実感できたのではないのでしょうか。

## 国際栄養学会議で発表

第二十二回

十二月六日から十一月十一日まで、東京国際フォーラムにて、第二十二回国際栄養学会議が行われました。

国際栄養学会議は、約八十の国や地域が加盟している国際栄養科学連合を母体として四年ごとに開催されている栄養学分野で最も歴史のある国際会議です。日本では昭和五十年に京都で開催された第十回以来四十七年ぶりに開催されました。今回は、約百の国から世界トップレベルの研究者が集まり、栄養学に関する最新の研究成果に

ついて討論や発表が行われました。フードデザイン学科の大橋哲也教授と栄養学科の佐藤典子准教授は、本会議において木材粉末を加えて調製した食パンの物性について発表しました。木材粉末を加えることで不足しがちな食物繊維を積極的に摂取する食生活を提案し、ほとんどが廃棄されている間伐材を有効活用する可能性について検討する内容で、食と環境を結びつけた画期的な研究であると評価されました。

## 図書館POP大賞

十二月十五日と二十一日に、「第五回図書館POP大賞」の授賞式を行いました。この賞は、学生の読書推進と図書館利用促進を目的に毎年開催しているイベントです。学生が好きな本を一冊選び、POP広告を制作して選んだ本を推薦します。今回は最優秀賞に、「世界から猫が消えたなら」、優秀賞には「いきりすく」、特別賞には「いつか眠りにつく日」が選ばれました。



## 「食育プログラム」

離乳食教室

十二月一日、野間智子教授の研究室に所属する四回生の学生たちが、宝塚市西公民館で実施された離乳食教室で食育プログラムを行いました。学生たちは、赤ちゃんと一緒に親子でできる体操を紹介し、離乳食の必要性、クイズ、紙芝居と盛りだくさんの食育プログラムを行いました。参加された保護者の方々にも好評で、とても楽しい交流の時間を持つことができました。学生たちも、食育の現場を体験でき、貴重な学習の機会になったようです。



# 学院生の活躍

○数字は開催月

## 中学校バレーボール部

- ①令和四年度西宮市中学校バレーボール選抜大会 **優勝**
- ②令和四年度阪神中学校バレーボール選抜大会 **優勝**
- ③令和四年度兵庫県中学校バレーボール優勝大会 **優勝**

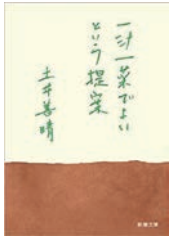
選抜大会は三年ぶりの開催となりましたが、令和元年度大会にも優勝しており、二連覇を達成しました。三月二十八・二十九日、大阪市で行われる近畿中学校選抜大会での活躍も楽しみです。



## 土井善晴客員教授 公開講座

十二月三日、甲子園短大を会場として、日本人間関係学会第三十回記念全国大会が開催されました。当日は、甲子園大学とリモートで繋がった公開講座として、「料理学とコミュニケーション」のテーマで土井善晴客員教授による特別講演も開催され、県内外から多くの聴講者が参加しました。

- ・食事とは何か
- ・和食の思想
- ・料理における関係性
- ・風土に生まれる食文化
- ・レシピとは、関係性を切るもの



「一汁一菜でよいとうり提案」新潮社発行

チームキャプテンの廣瀬安寿紗さんは、今後について「中学校バレーボール部は今年度、全国大会に出場するという大きな目標を達成しました。三年生が卒業しましたが、新チームも順調に始動しています。四月に入部する一年生とともに元気いっぱい中学生らしく活動し、令和五年度も全国の舞台を目指します。」と次の目標に向けての決意を語ってくれました。

など、日常において私たちが食する料理で最も大切な事を示唆していただきました。

土井先生は「料理を作る人と自然との関係性が大事であり、また料理を作る人と食べる人との関係性も大事である。関係性としてとらえると、料理の本質や役割、対

# 私学総連合美術展

一月二十七日から二十九日まで、兵庫県民会館アートギャラリーで兵庫県私学総連合主催の第六十一回私学連合美術展が開催されました。本学院からは、幼稚園三名、小学校六名、中学校四名、高校生三名が出品しました。



「コスモスとむし」志水 湊

- |        |       |
|--------|-------|
| 幼稚園年少組 | 河俣 稜那 |
| 年中組    | 浅倉 彩瑛 |
| 年長組    | 志水 湊  |

処の仕方が理解できるようになる」と述べられ、レシピに頼るのではなく食材と対話することや、人（他者）のことを想う大切さなどについて学びました。

講演後、「一汁一菜」の提案で多忙な現代人が気軽に日本の食文化に触れるきっかけを作られたことや、国内における日本の食文化の振興・発信への多大



な貢献が評価され、令和四年度「文化庁長官表彰」の被表彰者に選ばれた土井先生に学生代表から花束が贈呈され、聴講者全員で受賞のお祝いをしました。

この記念大会では、「変革期の社会を考えるー安全と安心のためのコミュニケーション」と題して、同学会理事長である早坂三郎学長の基調講演「変革期の社会とは」から始まり、「対立から対話へ紛争解決の手法」のテーマで、一般社団法人ピアメディアエーション学会の津田尚廣専務理事（弁護士）の講演もありました。



「どうぶつむらのうさぎ」河俣 稜那



「うみのなかはともだちがいっぱい」浅倉 彩瑛

# 園の輪

そのわ No.183

令和5年3月17日発行

学校法人 甲子園学院  
〒663-8107 西宮市瓦林町4番25号  
TEL. 0798(67)2100  
FAX. 0798(67)5488  
<http://www.koshien.ac.jp/honbu/>

## あとがき

◆新型コロナウイルス感染症に対応した生活も三年が経過し、ウイズコロナの考え方で学校生活を送っていくにはどうしたらいいかを考え続けてきました。コロナ禍での生活は非常に大変でしたが、明るい兆しが見えてきています。新たな一歩を踏み出し頑張ってください。

小学校	一年	三尾 紘幸
	二年	神坂 弦希
	三年	岡本千亜希
	四年	奥村 遼
	五年	森田 翔祐
	六年	上谷 穂香
中学校	三年	有島 彩
	三年	大島 彩愛
	三年	木村日愛里
	三年	吉住 滯南
高等学校	一年	戸井 茜
	一年	右田 琴子
	一年	室 実花子